

日本歯科色彩学会
発行人 片山伊九右衛門

訃 報

常任理事 吉田 隆（享年48歳）氏逝去

クインテッセンス出版社の社長、佐々木一高氏から編集長の吉田隆氏の訃報を受けた。晴天の霹靂の驚きであった。

私が吉田さんを知ったのは、18年前の1985年の春、私の考案した積分球診療室、技工室を見学取材に松本歯科大学へ来られた時だった。その時、歯科色彩の重要性、積分球方式、測色器機の説明を、非常に興味深く聞かれた。その結果、私はその内容を雑誌に書いた。

その後、彼は日本歯科審美学会、私の診療室に出向かれたり、クインテッセンス社で逢う機会が多くなり、色彩研究会を作ろうという話しになった。そこで趣意書を作り、クインテッセンス社の応接室を使用させていただき、全面的にバックアップしてくれた。その後、学会が成立し、今年で研究会から10年目、学会から8年目を迎えた。日本歯科色彩学会、学会誌ができたのは、まさに彼のお陰である。また歯科色彩の教科書の本も日本で始めて2冊出版した。

彼は一見、年よりふけて見えたが、思い起こせば二十代の後半に私の目の前に現れたのだった。こんなに早く世の中から消えてしまうとは夢にも思わなかった。入退院を繰り返した晩年、病に苦しみながら、会社の編集の仕事に最後まで気を使い頭から離れることはなかった。若いころ学生運動にのめり込んだ生一本の真面目さが、そのまま変わらず、彼の生涯を貫いていたのである。家庭を思い、子供や妻を愛し、仕事に燃えた彼の一生は一本芯が通ったものがあった。

彼の葬儀はキリスト教式でとり行われた。その理由を私は知らなかったのも、少々驚いたが、彼は若い頃宗教に関心を持ち、聖書を読み、教会に住み込んで、洗礼を受けようとしてきた過去がある事を知るに及んで、末期癌の痛みと戦いつつ在宅ホスピスを選択した彼の最後に選んだ救いへの道だった事を知った次第である。まだまだ元気で、クインテッセンス社の出版に携わって欲しかった人物である。

ご長男が残されている事は夫人にとって大きな助けになると思われる。

生者必滅会者定離。致し方ない事とは申せ、おいしい人を失った悲しみは癒されるすべを知らない。

8月12日(火)きわだ斎場 喪主 吉田音澄さん(国分寺市本多町)での告別式には、会長、片山伊九右衛門氏、副会長、元呑昭夫氏と私で会葬しました。

合 掌

名誉会長 橋口緯徳

1. 第12回学術大会の日程

平成16年7月24、25日 アルカディア市谷

大会事務局 日本大学松戸歯学部保存修復学講座

大会長 池見宅司教授 準備委員長 河野善治助教授

2. 日本歯科色彩学会講演会・見学会のご案内 (認定士資格講習会は後日に)

申し込みは、colorlan@beige.ocn.ne.jp カラーランド研究所まで

3. 日本歯科色彩学会雑誌「歯科の色彩」⑩Vol.10(1)の原稿募集

4. 会員業績集の作成

5. その他

詳しくは、5頁の「お知らせ」に掲載しております。

日本歯科色彩学会第11回総会・学術大会開催報告

日本歯科色彩学会第11回総会・学術大会は本年7月27日、ペアーレ新宿において開催されました。

総会は、奥羽大学歯学部教授天野義和先生が議長に選出、スムーズに進行されました。また、優秀論文賞には細矢由美子先生（長崎大学）と高承志先生（北京大学）の推薦され、学会より表彰を受けられました。

今回の学術大会は『色の可能性』をメインテーマにし、午前の特別講演には人間国宝で九谷焼の分野に釉裏金彩の道を開き、新しい無形文化技術を確立された吉田美統先生を、午後の特別講演では心理学を納め、その見地から長年色の研究を続けておられる女子美術大学教授で前学長の近江源太郎先生をお迎えしました。

吉田先生は、3月にテレビ放映のため収録された『石川の匠たち 人間国宝・吉田美統』から、わかりやすくまとめられた製造工程とともにご本人が自身で開拓、確立された釉裏金彩の作品をご紹介いただきました。中でも特に印象深く感じた言葉は、通常、人間国宝に認定される方は、昔からの技術を継承している場合と、すたれてしまった過去の技術の再現を達成された場合が多く、吉田先生のように新しく開発された技術について、重要無形文化財保持者—人間国宝に認定されることは非常に稀なこととおっしゃっていたことでした。歯科色彩学の分野でも今後の創意工夫が重要なのではという啓示が感じられる内容でした。

近江先生は、著名な画家の代表作から分析される性格の話や、色の好みについてたくさんの具体例を示しながら、色と心理の関わりのもつ多様さ、興味深さ、そして色彩のもつ可能性についてあらためて感じさせてくださる内容でした。

一般口演では教育、臨床の実践に即したタイトルがならび、確実な成果の発表が行われました。

わかりにくい場所での開催、不慣れな実行であったにもかかわらず、約80名の入場者をお迎えし、会員各位のご協力により無事終了することができましたことを、紙面をお借りして御礼申し上げます。

次回第12回大会は、日本大学松戸歯学部教授 池見宅司大会長のもと、平成16年7月24、25日にアルカディア市ヶ谷で開催されます。ご盛会をお祈り申し上げます。

大会長 片山 直
準備委員長 石原 祥世

第11回学術大会 一般演題評価投票結果

参加者にご協力頂いた演題評価投票の結果の簡単なご報告をさせていただきます。（発表順）

この結果を元に第12回総会で表彰される演題を発表いたします。

1. シェードガイドを用いたカラーマッチングについて 宮本めぐみ、他
着眼点が良い・独自性がある
2. 着色象牙質に対するオペークレジンの遮蔽効果 塚原 梢、他
実験のプロセスが明解である・臨床に即している・シェード選択の指標となる期待ある
3. 歯科用色彩計「シェードアイ」による天然歯の色調選択—測色部位および背景が明度に及ぼす影響—
池山丈二、他
適当な背景条件を設定すれば口腔内での測定も可能になるのではという示唆を与えた
- p-1 光重合型コンポジットレジンの光透過率 梶浦久仁洋、他
結果が非常に興味深かった
- p-2 歯肉色ホルダーGUMYによるシェードガイドの色変化について 片山伊九右衛門、他
同じ色彩も周囲の環境に左右され、注意を要することに気づかせてくれた・図表が適切
- p-3 歯の色についての考察 —俳句における歯の色について— 片山伊九右衛門
とても面白かった・同じような演題多い中少し異なっていておもしろい
- p-4 セメントの色が審美性ブラケット表面色におよぼす影響について 大西孝宣、他
矯正の分野でも色彩に関する研究は大切・興味深かった
- p-5 ラバーダムシートの色の違いによる患歯の明度 天野義和、他
ラバーダムシートの色を使いわけの必要性をはじめて感じた
4. 歯の色彩と変色歯に対する学生の理解度 細矢由美子
アンケート項目、対象学部学生が多岐にわたり興味深かった
5. 歯冠色の色再現要因 —均等色差空間による比較— 元吞昭夫、他
難解な分野をわかりやすくまとめたと感じた
6. 新しい無髄歯漂白法（久光方式）の効果 遠藤丈彰、他
臨床に即してよかった・臨床直結の内容を基礎的に検討してよかった

※その他、投票用紙について○をつける方式にした方が、無記名投票の方がよいのではなどのご意見がありました。ご協力、ありがとうございました。

日本歯科色彩学会 平成15年度総会

日 時：平成15年7月27日（日） 9：15～10：30

場 所：中央社会保険健康センター ペアレー新宿（新大久保）

- I. 開会、大会長挨拶，学会長挨拶
- II. 議長選出（奥羽大学歯学部天野義和教授）
- III. 議事録署名人の選出（岩崎嘉代、大西孝宣）
- IV. 報告事項
 1. 総務・庶務 現会員 正会員210名、臨時1名、準会員1名、賛助会員13社
 2. 会計 7月まで会費納入者は142名、9社
 3. 広報
 - 1) 雑誌編集 「歯科の色彩」はお知らせをお読みください。
 - 2) ニュースレター 次号は8月発行、原稿募集しております。
 - 3) インターネット・ホームページ 会員専用申し込みください。会員になると資料がたくさんみられます。
 4. 学術
 - 1) 優秀論文・優秀一般発表者表彰者推薦 お知らせに掲載。
 - 2) 第11回学術大会
 - 3) 第12回学術大会 2004年7月24.25日 アルカディア市谷 予定
 - 4) その他
 5. 教育・研究
 - 1) 会員業績集作成について お知らせに掲載。
 - 2) 歯科大学、歯科技工士専門学校に対する、色彩学のシラバスの作成を協力要請。
 6. 渉外 ホームページを通じて外国と交流を図っております。
 7. 認定士委員会 お知らせに掲載。
 8. 講習会・見学会 お知らせに掲載。
 9. 用語集作成委員会 進めております。
 10. その他
- V. 審議事項
 1. 平成14年度決算について 監事から監査承認のお言葉がありました。資料別紙
 2. 平成15年度事業計画について 資料別紙
 3. 平成15年度予算について 資料別紙
 4. 追加役員選出について お知らせに掲載。
 5. 雑誌バックナンバーの販売値段について 1冊1万円、会員は4000円
1～5は全て承認されました。
- VI. 閉会

平成15年度 事業計画（案）

1. 総会・学術大会の開催
2. 雑誌の発行
3. ニュースレターの発行
4. 会員の増強促進
5. 優秀論文、優秀研究発表の表彰
6. 認定士制度の充実
7. 講習会の充実
8. 色彩関係の研究所見学の施行
9. 歯科色彩学用語集の発行
10. 歯学部および歯科技工士専門学校、歯科衛生士学校における歯科色彩学教授要項の作成およびカリキュラム導入を促進
11. 会員の歯科色彩学業績集の作成と会員相互交流の促進
12. 国内、国外との学術交流の促進
13. その他

2002年度 日本歯科色彩学会決算報告

2002年4月1日～2003年3月31日

歳入の部	科目		2002年度予算	2002年度決算	増減(△は超過)	執行率	備考
	款	項					
歳入の部	1.	会費収入	2,520,000	2,278,000	242,000	90%	
		1.入会金	100,000	55,000	45,000	55%	5,000×11名
		2.本年度	1,870,000	1,653,000	217,000	88%	10,000×165名+3,000×1名(会員210名、納入率78.6%)
		3.過年度	100,000	150,000	△ 50,000	△150%	10,000×15名(実数10名 延べ15名)
		4.賛助会費	450,000	420,000	30,000	93%	30,000×14社(賛助会員14社、納入率100%)
	2.	事業収入	700,000	1,139,497	△ 439,497	△163%	
		1.論文掲載料	500,000	974,497	△ 474,497	△195%	歯科の色彩9号 13件 974,497
		2.広告掲載料	150,000	140,000	10,000	93%	2件 70,000×2
		3.書籍販売等	50,000	25,000	25,000	50%	書籍販売 25,000
	3.	雑収入	90,000	52,144	37,856	58%	
		1.著作・	50,000	52,013	△ 2,013	△104%	学術著作権協会 30,143 クイント印税(歯の色の話)21,870
		2.雑入	40,000	131	39,869	0.3%	銀行利息 131
	当期収入合計	3,310,000	3,469,641	△ 159,641	△105%		
	前期繰越金	1,753,409	1,753,409	0	-		
	収入合計	5,063,409	5,223,050	△ 159,641	△103%		

歳出の部	科目		2002年度予算	2002年度決算	増減(△は超過)	執行率	備考
	款	項					
歳出の部	1.	事業費	2,440,000	1,907,076	532,924	78%	
		1.学術大会運営費	500,000	500,000	0	100%	第11回大会 明海大学 500,000
		2.学会誌	1,450,000	932,610	517,390	64%	歯科の色彩第10号 832,860 9号別刷 53,550 名簿 46,200
		3.ニュースレター	70,000	64,466	5,534	92%	ニュースレター31号 28,619 32号 35,847
		4.調査研究費	20,000	10,000	10,000	50%	クイント 10,000
		5.ワーキング維持費	100,000	100,000	0	100%	
		6.講習会費	300,000	300,000	0	100%	
	2.	管理費	770,000	768,720	1,280	100%	
		1.会議費	50,000	18,360	31,640	37%	第4回理事会会場費 13,860 カラーランド 4,500
		2.交通費	150,000	148,500	1,500	99%	編集委員会1回、常任理事会4回等
		3.費用弁償費	50,000	50,000	0	100%	理事会手伝い謝礼(ヨシダ) 20,000 潤田副会長見舞い、法事 30,000
		4.通信連絡費	250,000	275,323	△ 25,323	△ 110%	切手 267,988 振込み他 7,335
		5.事務委託費	120,000	120,000	0	100%	事務局諸経費 10,000×12
		6.事務費	150,000	156,537	△ 6,537	△ 104%	封筒 56,384 消耗品 100,153
	3.	雑費	50,000	17,000	33,000	34%	潤田副会長逝去供花 17,000
	4.	予備費	50,000	-	50,000	0%	
		当期支出合計	3,310,000	2,692,796	617,204	81%	
		当期収支差額	0	776,845	776,845	-	
		次期繰越金	1,753,409	2,530,254	△ 776,845	144%	

上記2002年度収支決算は慎重監査の結果、相違ないものと認めます

2003年3月31日 生田博康 (印) 神津 瑛 (印)

2003年度 日本歯科色彩学会予算(案)

2003年4月1日~2004年3月31日

歳入の部	科目		2003年度予算	2002年度予算	増減(△は超過)	増減率(△は超過)	備考
	款	項					
歳入の部	1.	会費収入	2,350,000	2,520,000	△	△ 7%	
		1.入会金	75,000	100,000	△	△ 25%	5,000×15名
		2.本年度会	1,785,000	1,870,000	△	△ 5%	10,000×210名×85%
		3.過年度会	100,000	100,000		0%	10,000×10名
		4.賛助会	390,000	450,000	△	△ 13%	30,000×13社
	2.	事業収入	640,000	700,000	△	△ 9%	
		1.論文掲載	500,000	500,000		0%	
		2.広告掲載	100,000	150,000	△	△ 33%	
		3.書籍販売	40,000	50,000	△	△ 20%	
	3.	雑収入	70,000	90,000	△	△ 22%	
		1.著作・印税	60,000	50,000		17%	
		2.雑入	10,000	40,000	△	△ 75%	
		当期収入合計	3,060,000	3,310,000	△	△ 8%	
	前期繰越金	2,530,254	1,753,409		144%		
	収入合計	5,590,254	5,063,409		110%		

歳出の部	科目		2003年度予算	2002年度予算	増減(△は超過)	増減率(△は超過)	備考
	款	項					
歳出の部	1.	事業費	2,190,000	2,440,000	△	△ 10%	
		1.学術大会運営費		0	250,000		0%
		2.学会誌			△	△ 17%	
		3.ニュースレター		70,000			0%
		4.調査研究		20,000			0%
		5.ホームページ維持費					0%
		6.講習会					0%
	2.	管理費					0%
		1.会議費		50,000			0%
		2.交通費					0%
		3.費用弁償		50,000			0%
		4.通信連絡					0%
		5.事務委託					0%
		6.事務費					0%
		3.雑費		50,000			0%
		4.予備費		50,000			0%
		当期支出合計		3,310,000	△	△ 8%	
	当期収支差額		0			—	
	次期繰越金		1,753,409			144%	

お知らせ (敬称略)

1. 訃報

本会、常任理事の吉田隆様が8月10日、招天されました。告別式には会長、元香副会長、橋口名誉会長が参列いたしました。編集長を務められたクインテッセンス株式会社では、9月に偲ぶ会をいたす予定とお聞きしております。詳しくはホームページでお知らせいたします。

2. 日本歯科色彩学会講演会・見学会のご案内(認定士取得に必要な講習会は後日お知らせいたします。)

日 時：15年11月15日(土)午後1時から、

場 所：埼玉歯科技工士専門学校

齋藤美穂教授 博士 (人間科学) 早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科

「色彩情報による白の文化的背景」仮題

阪秀樹学術部長 日本歯科色彩学会・認定士委員会委員長、歯科技工学会会長 医学博士

「日本歯科色彩学会認定士の役割について」仮題

見学会は「花王」を予定しております。

3. 優秀論文の表彰 総会において表彰状が渡されました。おめでとうございます。

(1) 高承志 他 「エナメル質・象牙質および各種コンポジットレジンにおける透明性の色彩学的分析について」

(2) 細矢由美子 「歯の色と変色歯をテーマとした全学講義に対する評価」

4. 昨年度優秀一般発表演題 総会において表彰状が渡されました。おめでとうございます。

(1) 天笠光雄 他 「口腔癌および白板症の色彩に関する研究」

(2) 木村大 他 「二酸化チタン配合漂白剤と松風ハイライトのエナメル質耐酸性」

5. 認定士の紹介 木暮ミカ、山崎信夫

5名の問い合わせがありましたが、2名が審査を通りました。

暫定期間が過ぎて、審査が厳しくなりました。3年以上の会員歴、学術大会に3回以上出席、学会が認める学術集会に発表を行なっていること、本会講習会を受講し、修了証を授与されたもの。

詳しくは〒330-0021 埼玉県さいたま市見沼区東大宮 1-12-35 埼玉歯科技工士専門学校内

日本歯科色彩学会認定士委員会事務局まで。講習会は今後、埼玉歯科技工士専門学校で常設し、他に参加者が集めれば地方でも開催予定です。

6. 編集委員会からのお知らせ

歯科の色彩⑩の演題申し込みは15年11月4日、原稿締切りは15年12月1日。雑誌巻本に投稿規程が掲載されております。ふるってご投稿をお待ちしております。印刷代は別途に記載します。

別刷りは30部まで無料です。

7. 役員の追加

理事に、木暮ミカ、中山友克、村井宏隆の三名

幹事に山鹿洋一 が推薦され、承認を得ました。

8. 新入会員の紹介 本会の会員名簿に加筆くだされば幸いです。

2003年1月以後の入会の会員

高島一郎 南青山矯正歯科 (生田監事紹介)

塚原 梢 日本大学松戸歯学部保存学第一講座 (池見紹介)

大畑洋平 東京医科歯科大学口腔外科 (天笠紹介)

岩崎 覚 明海大学歯学部保存修復学講座 (片山直紹介)

勝海一郎 日本歯科大学歯科保存学講座 (池見紹介)

宮本めぐみ 明海大学歯学部保存修復学講座 (片山直紹介)

森崎 歩 平成記念病院歯科・口腔外科 (インターネット情報)

鬼海一幸 埼玉歯科技工士専門学校 学生 (会長・阪紹介)

木村天子 関西空港デンタルオフィス (中澤紹介)

遠藤丈彰 昭和大学歯学部保存修復学講座 (久光紹介)

9. 本会10周年記念事業として会員研究業績集の作成

総会時と第10回学術大会抄録集を郵送いたしました時に、資料を送付しております。15年9月末までに、お送りください。

10. 数年前からの事業計画でお認めいただいている、歯科色彩学を普及させるための学部学生、歯科技工士専門学校生、歯科衛生士学校生を対象にした、歯科色彩学のシラバスの作成に、協力者を募集しております。役員に限らず、どなたでも熱意のある方は事務局まで申し出てください。

11. 国際学会

(1) 第8回アジア歯科審美学会 (大会長 千田彰愛知学院大学教授) が16年7月17日~19日、名古屋国際会議場で開催され、本会が後援をいたします。

(2) 第5回中日口腔色彩学研討会が15年9月5~8日ウルムチで行なわれます。今年はSARSの関係で訪中団は組んでおりません。

技工と色

埼玉歯科技工士専門学校（学生） 鬼海 一幸

私は一度社会に出てから職場を退職し、心機一転して学生に戻ってから潰しのきく職に就こうと思い、医療関係に目を向けて出会ったのが歯科技工士という職業でした。学校の講義では学生に戻った自分にとって何もかも新鮮に映って知識を吸収することが楽しくて仕方がありませんでした。その一つに片山伊九右衛門先生の保存修復の授業がありました。先生の授業は現場の苦労や面白いエピソード等を織りまぜていたのを記憶しております。その中に歯科東洋医学の話や色彩の話がありました、色彩というと以前に別の講義で造形美術概論なる授業を受けましたがまだ学生の私にとって色彩というものは漠然としていて理解しにくいものでした。実際に自分で歯の色彩に強く興味を抱いたのは2年生になってからで陶材焼付鑄造冠やレジン前装鑄造冠を作ったのがきっかけでした。初めて作るものですからなかなか自分の思い通りに作ることができません。なかでも特に難しかったのが「色」でした。どうすればどのような色を表現できるのか全くつかみきれなかったことを覚えています。実習ではいちおう形にはなったもののまだまだ自分の中で技術を習得したとは思っていません。専門学校では国家試験に向けて次から次へと色々な実習や講義が目白押しで、私が特に心の中で引っかかっていた色に関する事は深く学ぶことは出来ない状態でした。しかし夏休みに入る前に学校の校外授業で楽焼きの絵付けがあり、色の話のレクチャーを受ける機会がありました。加法混色や減法混色、補色、色相環など色の奥深さを垣間みた思いでした。

そしてもう少し色について学びたいと思い、以前に片山伊九右衛門先生からお聞きした日本歯科色彩学会のことを思い出しました。初めは何も知らない学生である自分が学会に入る事自体ためらいましたが、学校を卒業してひとたび技工業界に身を置いたときに時間的な余裕がなくなり色彩を学ぶ機会が失われてしまうのではないかという思いから入会を決めました。7月の学術大会に初めて出席してみても学生の私にとっては解らないことだらけで戸惑いましたが、自分の知らない言葉や知識を聞くことは後々になってどんな形にせよプラスにはなっても決してマイナスにはならないと思いました。そして特別講演では歯科業界以外の先生方の貴重なお話を聴き、色に対する考え方や技法などは歯科技工とは違うものの新しい発想の宝庫だと思い、とても興味がある内容で自分にとって大変プラスになったと思います。歯科技工士は他の医療従事者と違うところは、人が健康に生活するためのお手伝いをする事以外に「審美性」という付加価値も考えなければいけないところが大きく違うところだと思います。体の健康と色、この2つを取り扱う歯科技工士は特殊で面白い職業だと学会に出席してあらためて思いました。歯科技工士になったときに患者さんの要求に応えられるように歯科色彩学会を通じて知識と技術を学び、経験を積んで社会に貢献できればと思います。（註：学生の入会第1号です）

トピックス 専門医（認定医）について

厚生労働省が昨年4月、患者が医師を選ぶ際の目安にもらうため、専門医（認定医）の肩書きを診療室の看板などに表示することを認めた。資格は法人資格があること、会員1000名以上、研修期間5年以上、試験を実施、インターネットで名簿を公表などの九つの要件を満たすこととなっている。多くの学会は「広き門」で、資格取得に不祥事「甘さ」が指摘されている。

8月22日の朝日新聞朝刊で、英米の学会は患者に最高の医療を提供することが目的であるが、日本の学会は学術の発展へ寄与という。今後は厳格な認定、学会のあり方再考の時代になることと思われる。

本会の認定士制度も、当初は暫間期間があつて、審査基準のありかたについては議論の余地がありました。現在の制度は、講習会の受講、実施試験の導入など、かなり厳しくなっている。認定士資格者は、せめて他の歯科医師に初歩歯科色彩学の指導が可能である能力を有することが望ましい。後追いになるが、本会主催の講習会を受講していただくことを希望します。（I. K）